

学校探検 17

あいさつ 夢 元氣 花がいっぱい

静修小学校 (日高)

案内者 成田 優華さん



静修小学校は、日高地域のほぼ中心に位置しています。校舎の北側には豊岡市を横断する国道482号が、南側には神鍋高原から円山川へ注ぐ稲葉川が流れています。3つの地区から、現在、63人の児童が通っています。

静修小学校に通う成田優華さん(6年)は、地元の図工クラブに所属し、ポスターやイラストの書き方を習っています。ポスターを作成している時がとても楽しいという成田さんに静修小学校を紹介してもらいました。



▲花づくりを中心に地域とのふれあいを大切にしている静修小学校

私が印象に残っているのは、9月12日に静修小学校の先輩で俳優の今井雅之さんが来校されたことです。

当日は、今井さんが子どものころに川で泳いで遊んだことやプールでの思い出、そして仕事の話など、元氣いっぱいの話聞かせていただきました。私は、テレビや映画で活躍する先輩の姿を見て、自分の夢をはつきりと持って、大きく成長していきたいと思いました。

静修小学校の特徴は、全校生が赤・桃・黄・水の4つのグループに分かれて、花ランド活動をしていることです。地域の老人会の皆さんに教えていただいていた学校を花いっぱいになり、リレーや大なわ跳び、掃除などの縦割り活動をしています。毎年開催される日高オーブンガーデンショーにも参加しています。見学に来られた方々が

私たちが心を込めて育てた花を見て「きれいですね」と声をかけられると、とてもうれしです。

また、昭和48年にできた、とても伝統のある金管バンドがあります。4年生以上の全児童がそれぞれの楽器を担当し、日高夏祭りやふれあい感謝祭、秋の運動会などで日ごろの練習の成果を披露しています。



▲日高夏祭りのパレードで演奏を披露する金管バンド

春に卒業を控え、たくさん思い出が詰まった静修小学校ともお別れが近づいています。が、中学校へ行ってもこれまで友達を大切にしながら、新しい友達の輪を大きく広げていきたいです。

笑顔の輪

沖縄の文化にふれて

『沖縄文化研究会』(豊岡)

沖縄文化研究会は、月に一度、豊岡市民プラザに集まり、沖縄の文化を通じて交流の輪を広げています。今年2月に発足したばかりで、現在、会員数は7人です。

沖縄県出身の代表者、屋良景千代さん(正法寺)は、「独特の歴史を歩んできた沖縄の文化と情緒をたくさんの人に広めたいという思いで友だちなどに声をかけて設立しました」と沖縄の弦楽器「三線」を弾きながら話します。

同会では、沖縄料理づくりや三線演奏、そして沖縄音楽の歌詞から唄の意味やことばを学んでいます。会員の谷口景子さん(日高町松岡)は、「みんなで合わせて弾いたり唄ったりするととても楽しいです。また、三線を弾いていると、その優しい音色に心が癒されます」と声を弾ませます。

休憩時間にはいつも会員手作りの沖縄料理を食べながら

沖縄の生活や歴史、観光などの話に盛り上がり、笑顔が絶えません。

「沖縄に少しでも興味があれば入会できます。他は何もありません。悠々自適なところも沖縄の文化ですから」と屋良さん。その気さくな性格とアットホームな雰囲気同グループの持ち味です。

今後は「会員数を増やし、三線を使った音楽活動や、沖縄舞踊・民謡活動を展開していきたい」と会員の皆さん。家庭的な雰囲気が印象的なグループでした。



▲三線を弾きながら「涙そうそう」を唄う会員